MOMIJI プレス

Vol.2

日本生物学オリンピック2011本選　開催

2011年8月18日、日本生物学オリンピック本選が広島大学で開催された。13:00からの開会式に合わせて、予選を勝ち抜いた選手達が会場となる理学部の大講義室に集合した。長旅で疲れているにもかかわらず、カメラを向けると笑顔でポーズをとってくれる選手もおり、試験を楽しみにしている様子が窺えた。選手たちは開会式が始まるまで、選手同士で談笑を楽しむ人、教科書を開いて最後の復習をする人など思い思いに過ごしていた。

開会式の様子

受付に来た選手たち

開会式では、JBOの浅島誠委員長、広島大学の浅原利正学長、実行委員長の出口博則先生による挨拶に続き、東広島市の藏田義雄市長による祝辞が贈られた。浅原学長は「生物好きの人が集まって、人と人とのネットワークが生まれることを非常にうれしく思います。選手のみなさんの活躍を期待しています。」と選手たちへメッセージを送った。

試験に臨む選手たち

開会式終了後、選手たちは2班に分かれて1日目の試験会場となる実験室へ移動した。実験室は大きな机が並び、選手たちは6人一組で1つの机に着席した。机は1人分のスペースに仕切られており、それぞれ光学顕微鏡と実体顕微鏡の2種類がセットされ、試験で使う植物やシャーレなどの道具も準備されていた。試験に関する説明が開始されると、顕微鏡の使い方や染色体標本の作り方を選手たちは実際に作業をしながら聞いていた。

顕微鏡をのぞく選手たち

問題解説

試験終了後すぐに、試験解説が行われた。今回の試験では、細胞分裂の様子や花のつくりについての問題が出題された。初めての実験による試験で、思い通りにいかない部分もあったかもしれない。選手たちは解説を真剣に聞きながら、試験を振り返っているようだった。

実験試験は本日も控えている。この試験が終われば、楽しいイベントがたくさん待っている。そのためにも、選手たちには精いっぱい頑張ってほしい。

解説をする嶋村先生

2011年8月19日（木）

本日の天気

最高/最低
32℃/26℃

スケジュール

6:00	朝食 6:00-7:30
8:00	試験 9:30-12:30
10:00	
12:00	昼食 12:30-13:30
14:00	試験 14:00-17:00
16:00	
18:00	サイエンスカフェ 18:20-20:30
20:00	天文台見学 21:10-22:20
22:00	ホテルカモ到着 22:30

今日の宿泊担当

松崎先生

小原先生

加藤先生

気軽に声をかけて下さいね。

野村（1年）

宮本（3年）

山（4年）

楢原（院2年）

朝倉将斗くん

生まれて初めて新幹線に乗りました。

矢光真子 さん

山梨から来ましたが、関東よりもゆったりとしていて良いです。みんなが温かく感じます。

佐藤謙くん

高校ではなかなか実験ができないので、実験ができて楽しいです。

竹中敦紀くん

プレパラートを作るときに気泡が入ってしまって大変でした。

吉川武文くん

明日もぼちぼち頑張ります。

相馬朱里さん

新聞楽しみにしてます♪

野田夏実さん

80人(選手全員)と友達になりたい！

小柳友和くん

1人で来たけど、小学校のときの友達と会えました。

田牧輝久くん

一問もわかりませんでした！

関口実歩さん

細胞を数えるのが大変でした。

末田梨沙さん

生物はどんな分野でも面白いと思います。

上村和也くん

新潟県長岡市の花火はとてもきれいですよ。

選手たちに突撃!

施設紹介　その2～海編～

生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション

竹原ステーションは東広島キャンパスから車で40分ほど移動した竹原市にある研究施設です。ここではプランクトン、魚類、海藻の専門家と技術員で構成されるスタッフが、教育・調査・研究・飼育実験などを行っています。目の前には瀬戸内海が広がっており、魚類や底生生物、浮遊生物の調査に最適な環境です。屋外のいけすには瀬戸内海の魚類が飼育されており、それらを目の前で観察することができます。施設には14人乗りの小型調査船舶「カラヌス丸」があり、学生実習でも使用しています。

ここでは学内の研究活動や学生実習だけではなく、他機関の教育研究、高校生の実習、地域の住民の生涯学習など様々な社会貢献活動も積極的に行っています。今年の7月に行われた一般公開では、多くの方が施設の見学や生物の観察をされました。

生物生産学部附属練習船　豊潮丸

豊潮丸は、乗船実習などの授業や海洋生物の調査研究に活用されています。ドックは大和ミュージアムで有名な呉市にあります。現在の豊潮丸は4代目で2006年度に完成しました。電気モーターでスクリューを動かす「全電気推進システム」を採用し、様々な先進的な設備が整っています。国際航海も可能な近畿・中国・四国地方では唯一の大学所属の練習船で、他大学との共同研究においても活躍している広島大学自慢の船です。